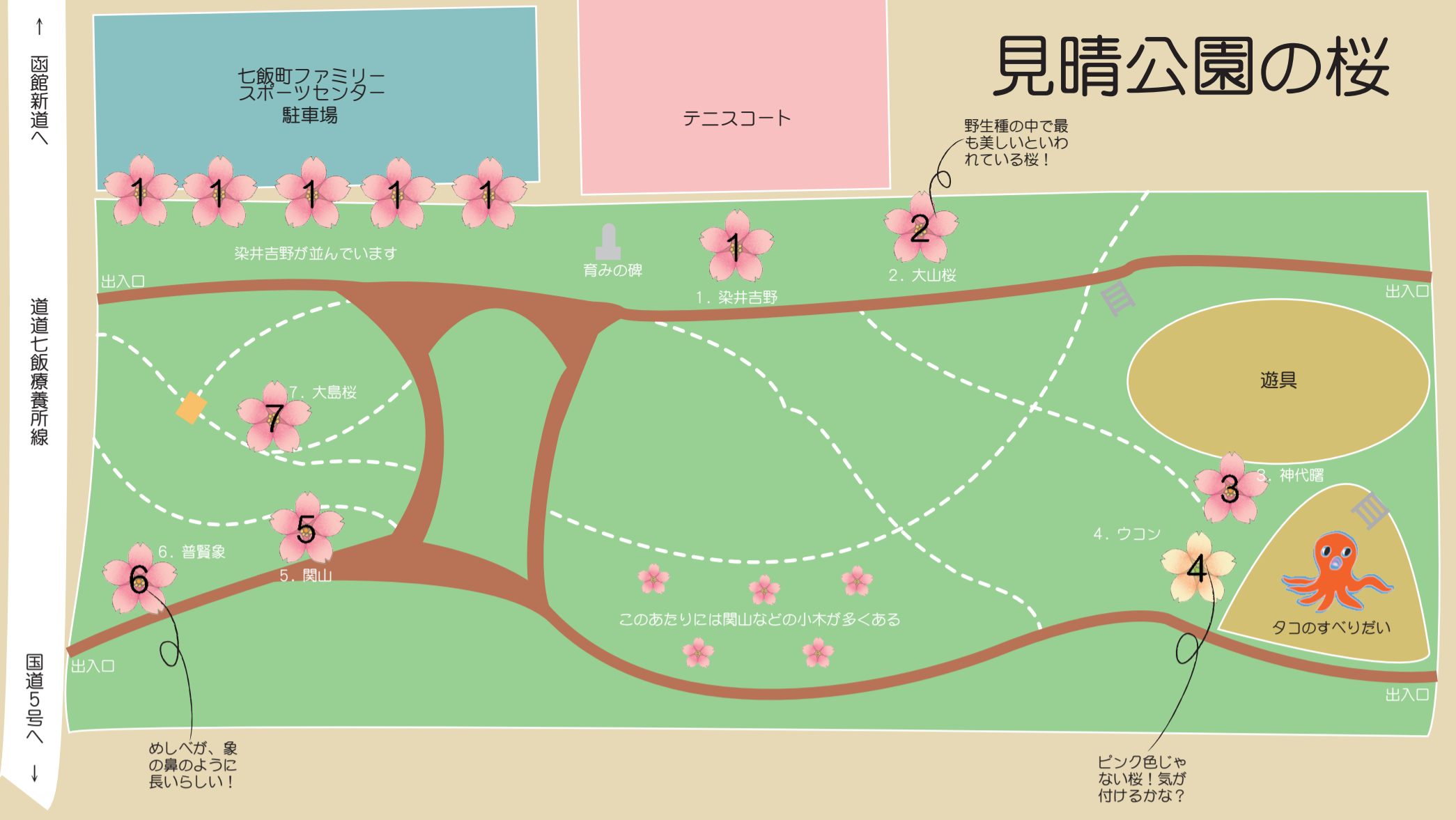


見晴公園の桜



寿公園の桜



監修 「桜守」浅利政俊
製作 七飯町歴史館
0138-66-2181

桜の解説

- 1** 染井吉野 (そめいよしの)

花弁は5個。おしべは36本あり、めしべは1本。微淡紅色で開花後に白色になる。九州から北海道までいたる所に植栽されている。葉が出る前に花がたわわりになり華やか。見晴公園にはこの品種が多く見られる。5月上旬が見頃
- 2** 大山桜 (おおやまざくら)

花弁は5個。おしべは38本あり、めしべは1本。紅紫色の花が咲く。花と葉が同時にでるものや、花が葉より先に出てさくもの、花の時期がながいものなど、多様な様相をみせる。4月下旬から5月上旬が見頃
- 3** 神代曙 (じんたいあけほの)

東京都の神代植物公園で栽培されている江戸彼岸と多種の雑種と考えられる。花弁は淡紅紫色で先端はやや色が濃い。見晴公園のほか、文化センター駐車場でもみられる。5月上旬が見頃
- 4** ウコン (うこん)

日本では、江戸時代から栽培されていた桜。花弁は7~18個で、外側は淡黄緑色、先端が淡紅色になることもある。内側は淡黄色で、肉眼ではほとんど白色に見える。5月中旬から下旬が見頃
- 5** 関山 (かんざん)

花弁は20~45個で不規則にねじれる。おしべは30~50本、めしべは2本ある。枝が内側に向かって弓なりに曲がる特性があり、実を結ばないため、接木による培養で今日まで受け継がれてきた。5月中旬から下旬が見頃
- 6** 普賢象 (ふげんぞう)

室町時代から日本にあったといわれる歴史の深い桜。普賢象とは普賢菩薩の乗っている象をいい、華化しためしべが長く、象の鼻に似るため名づけられた。花弁は20~50個、めしべは2本。5月下旬が見頃。
- 7** 大島桜 (おおしまざくら)

花弁は普通5個で、時に6~15個になることもある。花の香りが良い。伊豆大島に多い種のため、この名で呼ばれる。葉っぱの色はやや褐色を帯びた緑色で桜餅に使用される。5月中旬が見頃
- 8** 熊谷桜 (くまがいざくら)

花弁は25~35個あり、めしべを2本もち、おしべよりはるかに長く突き出る特徴をもつ。また、開花時は若芽がほとんど開かず、美しい八重咲きが見られる。4月下旬から5月中旬が見頃
- 9** 鷲の尾 (わしのお)

大島桜の改良したものとされている。花弁は5~7個で、白色で、ときに微淡紅色になる。花弁全体にしわ状のうねりがみられる。現在では、全国的にも極めて珍しい貴重品種になった。5月中旬から下旬が見頃
- 10** 仙台枝垂 (せんだいしだれ)

花弁は5個。普通は白色だが、先端部が微淡紅色を帯びることがある。枝が弓なりに下に曲がり、枝の先端が下垂する。若葉は黄褐色を帯びた緑色。5月上旬から中旬が見頃
- 11** 山桜 (やまざくら)

寿命が長い大木になりやすい。日本では古来から歌や詩に詠まれてきた品種でもある。花弁は5個。おしべ約40本。主として日本列島の南半分に分布するため、この場所に3本もあるのは、珍しい。5月中旬が見頃
- 12** 江戸彼岸 (えどひがし)

一般に「枝垂桜」と呼ぶものは、この品種のことをさす。高木でしばしば巨樹になることがある。花弁は5個で淡紅色。染井吉野の親のひとつでもある。寿公園には2本の大木があり枝垂れ具合など見事である。5月上旬が見頃